

# タイプレミアリーグの サムライたち

データ特集記事 第405弾  
取材・文・写真 / 本多辰成

近年、日本のサッカーファンにも知られる存在となったタイのプロサッカーリーグ、「タイ・プレミアリーグ」。

Jリーグが「アジア戦略」として急成長する東南アジアサッカー界とのつながりを深めているのもあるけれど、何といてもタイ・リーグが特別なのは、「世界一多くの日本人が活躍する海外リーグ」という点だ。昨季は日本でもかなり名の知れた選手たちも含めて60名以上の日本人選手がプレーした。今季は外国人枠が減少した関係で少なくなったものの、それでも50名ほどがタイで戦っている。

選手だけでなく、指導者やスタッフなどにも多くの日本人が活躍していて、今季は日本人が監督を務めるチームも7つある。今号の特集では、タイ・プレミアリーグで活躍するサムライたちにスポットを当てながら、タイ・サッカーの魅力を紹介する。日本人選手を応援しにスタジアムへ——。タイ在住の日本人にとっては、新しいタイの楽しみ方と言えるだろう。



## 本多辰成

(ほんだ・たつなり)

1979年、静岡県出身。出版社勤務を経て2011年来タイ、タイ・プレミアリーグの取材を開始。現在はウェブマガジン「スポーツナビ」や「フットボールチャンネル」、隔週刊「サッカーダイジェスト」、月刊「サッカーマガジンZONE」などにタイ・サッカー関連の記事を寄稿する。

## 「タイ・プレミアリーグ」とは？

タイのプロサッカーリーグは3リーグ制となっており、1部リーグ「タイ・プレミアリーグ」(Jリーグにおける「J1」)に18チーム、2部の「ディビジョン1」(同「J2」)に20チーム、3部の「ディビジョン2」(同「J3」と「地域リーグ」)に6地域83チームが所属する。

## タイ・プレミアリーグの日本語情報はここで!

サッカー情報は気になるけれど、タイ語や英語はちょっと苦手というあなたに! タイ・プレミアリーグの情報を日本語でチェックできるウェブサイトがある。その名も「タイ・プレミアリーグに行こう! SAMURAI×TPL」。試合スケジュールや結果はもちろん、日本人選手の情報なども詳しく紹介されている。試合日程と会場を確認して、週末、サッカー観戦に出かけよう!



■タイ・プレミアリーグに行こう!

SAMURAI×TPL

<http://tpljp.net>

バイト生活から「タイ・ドリーム」を  
掴んだ男のサクセスストーリー

# 下地 奨 (29歳)

MF／ポリス・ユナイテッド(元サガン鳥栖ほか)

1985年、沖縄県出身。東京ヴェルディユースから始まり、青山学院大学、サガン鳥栖、スポルティボ・ルケーニョ(パラグアイ)、CAリネンセ(ブラジル)、Esporte Clube Águia Negra(ブラジル)を経て、2013年よりタイのBECテロ・サーサナFCでプレー。今季からポリス・ユナイテッドに在籍。昨季はタイ・プレミアリーグ日本人最多の17得点をマークした。

Jリーグを退団し、挑戦した南米で挫折。そんな男を蘇らせたのがタイだった。アルバイト生活から、わずか2年でタイのスターに上り詰めた、下地奨選手の成功の裏にあった物語——。

## 「一度は終わった」 サッカー人生

もう、サッカー人生は終わったな——。

2012年の年の瀬が迫る頃、下地奨選手はそんな風に考えていた。サッカーを続けたい気持ちはあってもチームがない。銀座のクラブのアルバイトで食いつなぐ生活の中で、自然と「終わり」が頭に浮かんだ。

タイ・リーグに挑戦してみないか？ 知人を通じて話をもらったのはそんな時だった。年が明けてすぐ、妻と小さな娘を残して、ひとりタイへ向かった。

「一度終わったと思ったサッカー人生ですし、迷いはなかったです。半年間サッカーから離れたことで、整理もついていたので」

タイに到着した翌日から、チームを渡り歩いてトライアウトを繰り返す毎日。タイの名門であるBECテロ・サーサナFCでの練習試合で大活躍したことで、見事にチャンスをものにした。

ショウ・シモジの「タイ・ドリーム」の始まりだった。

## 無給でプレーした 苦しい南米時代

下地選手がサッカーを始めたのは6歳の頃のこと。保育園の時に再放送されていた『キャプテン翼』に夢中になり、小学校に入るとJリーグが開幕。自然と将来の夢は「サッカー選手」になっていた。

大卒でJリーグのサガン鳥栖に入団。夢

は叶ったが、どこか満たされないものを感じた日々。プロ3年目を終えた時、子供時代からの憧れだった南米での挑戦を決意した。Jリーグでの契約更新も可能な状況で、あえて選んだ険しい道だった。

「今思えば、大卒3年目くらいで会社を辞める人たちの気持ちって、こういう感じなのかなと。ある程度慣れて、このままでいいのか、みたいな……」

試合に出場するまでは無給という条件を承知で向かったパラグアイ、続くブラジルでもビザの問題などがあり、結局1年目は無収入。妻と生まれたばかりの娘と向かった南米での生活は、辛く厳しいものだった。

それでも2年目には試合に出場できるようになり、翌年の契約の約束も交わして一旦帰国。たが、帰国後に突然、契約白紙の通達を受ける。日本でもチームは見つからず、アルバイト生活が始まった。

## 「タイ・ドリーム」の 続き

終わったはずのサッカー人生を蘇らせてくれたタイ。苦しい時間から解放たれた



下地選手は、1年目から7ゴールをマークすると、2年目の昨季は日本人選手最多となる17ゴールの大活躍。今や、ショウ・シモジの名前を知らないタイのサッカーファンはいないと言ってもいいだろう。

「今思えば、南米での2年もアルバイトをしていた半年間も必要な時間だったと思います。昔はただ上を目指してサッカーをしていただけでしたけど、今は、なんのためにサッカーをやっているのか、というのを常に考えるようになりましたね」

タイ3年目の今季、下地選手は惜しまれながらもチームを去る決断をした。新天地での年俸は、Jリーグ時代の実に5倍から6倍に相当するという高待遇。銀座でのアルバイト生活からわずか2年、まさに「タイ・ドリーム」を手にした。

「とにかく毎試合ゴールを決める選手でいたいと思っています。目標はあまり言わないようにしていますが、普通に考えたら『それは無理でしょう』というような突拍子もないことに取り組みたい。この2年間も、そういうふうやってきたので」

サッカー人生を変えたタイの地での3年目、下地選手はどんな「タイ・ドリーム」の続きを見せてくれるのだろうか。





©BANGKOK GLASS FOOTBALL CLUB

1986年、宮城県出身。Jリーグでは、ベガルタ仙台、モンテディオ山形でプレー。2014年にタイのバンコク・グラスFCへ。タイ1年目の昨季は、日本人選手としては下地選手に次ぐゴール数での活躍。タイFA杯のタイトル獲得にも貢献した。

## 思い切って 飛び込んだタイ

タイに来て1年、タイの印象はどうか？  
「人も優しいし、すごくいい国だなと感じています。来るまでは発展途上国という印象を持っていたんですけど、バンコクに関しては地元の仙台より高層ビルもたくさんあって全然イメージと違いましたね」

どういう経緯でタイへの移籍が決まったんですか？  
「2013年にモンテディオ山形を解雇になって、チームを探している時に知人を通じてタイの話をしていただいたんです。タイに挑戦するとすれば日本でのトライアウトにも参加できない状況でしたが、思い切ってタイへの挑戦を決めました」

もともと海外でのプレーには興味がありましたか？  
「ベガルタ仙台にいた時に一緒にプレーさせてもらった丸山良明さん（※1）や財前宣之さん（※2）がタイでプレーしていたこともあって、タイには興味がありました。興味はあっても一歩を踏み出せない、という感じだったんですけど、今回は『このタイミングだな』と感じたんです」

※1:丸山良明さん……Jリーグ・アジアアンバサダー。2009～2011年にタイ・プレミアリーグでプレー、前ランシットFC監督（ディビジョン2）  
※2:財前宣之さん……2010年にSCGMアントンユナイテッドに移籍。タイ・プレミアリーグでプレーした日本人の先駆け的存在

# 甘いマスクのニュースター 大久保 剛志 (28歳)

FW／バンコク・グラスFC (元ベガルタ仙台ほか)

日本ではJリーグ5季、通算2ゴールの男がタイ1年目にして11ゴールの大活躍。甘いマスクで女性ファンの人気も集める、タイ・プレミアリーグの日本人ニュースターだ。

## チャンスを掴んだ 運命の試合

実際にタイ・リーグに来てみてどうでしたか？

「ほかのチームの日本人選手と話していると、日本と違っていろいろと問題が多いということを知んですけど、バンコク・グラスに関してはまったく問題がないんです。スケジュールも1週間分まとめて出ますし、集合時間や服装なども細かく指示をしてくれて、本当に日本のクラブと変わらない環境ですね」

レベルに関してはどうですか？

「タイはFIFAランクで日本より下の順位というのが頭のどこかにあって、多少上から見ていた部分があったと思うんですが、実際にプレーしてみてタイ人の技術の高さには本当にびっくりしました。その中で外国人として生き残らなければいけないということで、危機感は常に持っています」

昨季前半戦は、試合に出られない時期が続いていましたよね。

「外国人は半シーズンで切られる選手がいるということを聞いていたので、このまま行ったら確実に僕だなと。これではいけないと思って、日頃の体調管理とかもすごく細かくするようになって。スタメンのチャンスをもたらした試合で、ゴールを決めて勝利することができたんです。その試合で結果が出なければたぶん切られていたと思いますね」



## 幕を開けた 「勝負の2年目」

今は、タイに来てよかったと感じていますか？

「本当にタイに挑戦してよかったと思います。田舎者なので『できれば日本で』という思いもあってなかなか行動に移せなかったんですが、年齢も年齢ですしどこかで花を咲かせないことにはダメだと思って。Jリーグの可能性はきっぱりなしにしてタイに飛び込んだ、あの決心もよかったのかなと」

タイでの2年目が始まりましたが、どんな1年にしたいですか？

「1年目は正直うまく行きすぎたと思っているので、2年目が勝負だと思います。結果が出せなければその先はないし、逆に結果が出ればある程度認めてもらえると思う。外国人枠も減ってより厳しくなっていますが、チャンスを生かす自信が今はあるので、2年目も結果を残せるように頑張ります」



©TOT SC FOOTBALL CLUB

1979年、静岡県出身。ジュビロ磐田ユースからジュビロ磐田へ。セレッソ大阪、川崎フロンターレ、東京ヴェルディでプレー。アルゼンチンリーグ（CAリーベル・プレート）での経験もあり。2010年からボリス・ユナイテッド、2011年よりTOT SCに在籍する。主にボランチとして攻守にチームを支える。

## サッカーを続けられる ことに感謝

1年目の2010年と比べて、リーグに変化を感じますか？

「レベルもだいぶ上がったと思いますし、お客さんも入るようになって環境も整ってきたと思います。選手の給料も上がっていますよね。僕はあまり実感がありませんけど（笑）」

河村選手は、待遇面では大きな変化はありませんか？

「（タイ・リーグの変化として）噂されているような大きな変化はないですね。ただ、僕はそういうことはどうでもいいんです。この年齢になってサッカーをやらせてもらっていることに感謝しているし、できるだけ長く現役を続けたい。そのためにはお金じゃなくて、怪我をしないと、試合に出続けることが大切だと思っているので」



# キャプテンを務める ベテラン日本人

## 河村 崇大 (35歳)

MF／TOT SC (元ジュビロ磐田ほか)

Jリーグでは黄金時代のジュビロ磐田などでプレー。豊富な経験を生かしてタイ・プレミアリーグ唯一の日本人キャプテンとして活躍するベテランは、今季でタイ6年目を迎える。

いつ頃からそういう考え方になったんですか？

「タイに来て最初のチームだったボリス・ユナイテッドで、日本ではありえないことですけど、2年契約のところを1年でクビになったんです。そこから、『タイ人に認めさせたい』『どうにかして生き残りたい』という気持ちが強くなって変わったのかな、と思います」

## いつの間にか 「大好き」になったタイ

試合ではキャプテンマークを巻いていますよね。

「キャプテンをさせてもらえるというのは喜ばしいことだし、感謝しています」

いろいろと文化の違いもあると思いますが、どういうスタンスでやっていますか？

「時間にルーズなところとかは慣れました。だからといって自分もそれに合わせるわけではなくて、練習でも必ず一番に行きます。それをやり続けていると、だんだんほかの選手も早く来るようになってきました。このチームで5年目ですけど、TOTはあまり選手も変わっていないので、最初の頃よりはかなり選手の意識も変わったと思います」

タイの文化も尊重しながら、という感じですか？

「タイのことが好きじゃないとか、受け入れられない選手は居られないと思いますね。文句を言

うより、サッカーをやらせてもらっているという感謝の気持ちを持っているほうがうまく行く気がします」

河村選手は、タイが好きですか？

「大好きですね、最初はそんなことなかったんですけど……。なんなんだろう、何がいいのかと言われるとよくわからないんですけど、なんかいいんですよね（笑）」

## 40歳までタイで プレーしたい

この先も、まだまだタイでプレーしたいですか？

「できればあと5年、40歳までプレーしたいですね。その間に、タイに何か恩返ししたいということも考えるようになりました。タイでプレーしている日本人選手たちと一緒にタイの子供たちにサッカーを教えるとか、何か日本とタイの架け橋的なことができたかなと思っています」

6年目の今季はどんなシーズンにしたいですか？

「去年は出場停止で1試合出られなかったの、まずは怪我なく全試合フルタイム出場。それから、去年は9ゴールだったので2桁得点も狙いたいですね。チームとしては毎年残留争いをしているので、今季はしたくない。でもそれは、自分が結果を出せば自ずと順位は上に行くと思うので、責任感を持ってやりたいと思います」

# 自身初のタイ・プレミアリーグに挑む 「日本人監督ブーム」の火付け役に聞く！

## 神戸 清雄 (53歳)

監督／ナコンラーチャシーマーFC

ナコンラーチャシーマーFCをクラブ初となるタイ・プレミアリーグ昇格に導いた神戸清雄監督。  
タイ・リーグでの日本人監督の評価を一気に高めた手腕で、今季に挑む。



1961年、静岡県出身。静岡高、早稲田大、本田技研。指導者としてはJリーグ・ジェフユナイテッド千葉、フィリピン代表、グアム代表、北マリアナ諸島代表などの監督を歴任。2013年途中からナコンラーチャシーマーFC監督に就任すると、昨季はクラブ史上初の1部昇格に導いた。

## 「日本流」の 植え付け方

日本で監督をするのもタイで監督をするのも、基本的には変わりはありません。ただ、最初は時間にルーズな面があったり、規律の部分で問題を感じることはありました。

ピッチ以外でルーズな選手は必ずピッチでもルーズになるので、そこは修正が必要でしたね。好き勝手にやったらサッカーになりませんから。

文化的な違いもあるので、それは尊重しつつ規律を守るところは守らせる。たとえば、タイ人は面に向かって注意されたりするのを嫌がりますから一人ひとり呼んで個別に伝えたり、そういうところは気を配りましたね。

当然、タイ人の良さもあるわけですから否定ばかりするのではなく、褒めるところは褒めるのも大切です。

今では練習に遅れて来る選手もまずいなくなりましたし、それが結果にもつながっているといます。

## 熱狂的な コラートのサポーター

コラート(ナコンラーチャシーマー県)のサポーターは本当に熱くて、ホームゲームでは平均1万5000人が入ります。人数だけでなく、いい雰囲気を作ってくれるのでやりやすいです。

ホームとアウェイではサッカーがまったく変わりますし、実際、一昨季の途中に私が就任してからリーグ戦では一度もホームで負けていません。

応援の仕方も、ちょっと形式ばったところのある日本では味わえない、いい雰囲気があるんです。タイ人の気質としてスイッチが入ったら強いところがありますから、サポーターの存在は非常に心強いですね。



## 初のタイ・プレミア リーグ挑戦

初めてのタイ・プレミアリーグですから、もちろん1年目から欲を出して優勝などは考えていません。プリーラム・ユナイテッド、チョンブリーFC、SCGMアントン・ユナイテッドの「トップ3」は揺るぎがたいものだと思いますから。

ただ、今の力からいっても真ん中より上の成績は出せると思っていますし、うちのホームでは上位チームも相当やりにくだらうとは思っています。

チームからは「まずは残留」ということを言われていますので、10位、9位くらいを目標にしたいと思っています。

## 「神戸効果」で 今季は日本人監督が7名!

神戸監督だけでなく、タイ・プレミアリーグではチョンブリーFCを率いた和田昌裕監督が最優秀監督賞を受賞するなど日本人監督の活躍が目立った昨季。

特に神戸監督のナコンラーチャシーマーFCが優勝を飾ったディビジョン1では日本人監督が大人気だ。今季は三浦泰年監督(チェンマイFC)、副島博志監督(アユタヤーFC)、林雅人監督(ソクラー・ユナイテッド)、高野剛監督(BB-CU FC)、行徳浩二監督(アントーンFC)、滝雅美監督(タイ・ホンダFC)と6名の日本人監督が指揮を取る。

選手だけでなく、日本人監督が率いるチームからも目が離せない!



三浦泰年監督

# 裏方に聞く! タイ・サッカー界の日本人とは?

選手・監督だけでなく、サポート・スタッフとして活躍する日本人たちも。  
どんな役割で、どう見られているのか。内部事情を知る裏方たちに聞いた。

## 日本人に求められるのは「規律」

## 真野 浩一

エージェント

タイで成功する選手の共通点は、タイでサッカーをさせてもらっているという感謝の気持ちがあることです。それがないと受け入れてもらえませんから。

また、日本人監督に対しては「規律を植え付けてほしい」というチーム側の思いがあります。今回、ソクラー・ユナイテッドの林雅人監督の契約を担当させてもらったのですが、オーナーからも「そこでタイ人監督との違いを見せてほしい」と。昨季チョンブ



プロフットサル選手としてタイリーグでプレー。現役引退後はバンコクを拠点にアジア全域で、チームと選手・監督たちをつなぐエージェントとして活動する。

リーFCを率いた和田昌裕監督のイメージがあるようで、林監督は練習試合でも必ずスーツで指揮してほしいということも言われています。

## ビジネス面でも存在感のある日本

## 鈴木 勇輝

マネージャー／タイ・ホンダFC

昨季までの2シーズン、GMを務めさせてもらったチェンライ・ユナイテッドは選手、スタッフを含めて日本人の多いクラブでした。特に日本人だけを求めているというわけではないと思いますが、オーナーも「日本人は規律がしっかりしている」という印象は口にしていました。

そういう声はほかのチームからも多く聞きましたね。日本人や日本のサッカーに対してもいい印象は持たれていると思いますが、



2013年よりチェンライ・ユナイテッドのGMとして活躍。今季はディビジョン1のタイ・ホンダFCに籍を移し、マネージャーを務める。

チェンライ・ユナイテッドでは日本企業についていろいろ聞かれることが多く、ビジネス面での日本の存在感の大きさをより感じましたね。

## 異文化の中で「日本流」を生かす

## 小倉 敦生

営業・マーケティング／チョンブリーFC

フロントスタッフとしてチョンブリーFCに入った頃は、日本では当たり前でもタイではできていないところがたくさんありましたね。なので本当に初歩的な部分、たとえばオフィスにカレンダーを貼ったりすることから始めなければいけませんでした。各作業のボードも作ったりして、今週やることの「見える化」をしました。

ただ、一緒に仕事をしてみてタイ人が劣っているとは思いませんし、むしろ日本人とは違う価値観



2011年よりチョンブリーFCの営業・マーケティングとして活躍する。多くの日本人を配して「日本流」の強化を図ってきたチームを、裏方として支える。

が勉強になることも多いです。どうやったらタイ人と上手く仕事をやれるのか、こちらも日々勉強中です。

## 「日本を見習おう」という気持ち

## ブンポン・ナッタポン

通訳

タイのサッカーファンの中には、「30年くらい前までは日本よりもタイの方が強かった」という認識があるんです。日本はすごく弱かったわけですけど、本気で頑張ってる今はワールドカップに行ける国になった。

サッカーに限らず、いろんな面で「日本を見習おう」というのは昔からありますが、やっぱりサッカーでも「頑張ってる日本になろう」と。なので、いい日本人選手ならどのチームも欲しいと思い



2010年にSCGMアントン・ユナイテッドでプレーした財前宣之選手の専属通訳を務める。現在もさまざまな形で日本とタイのサッカー界をつなぐ役割を担う。

ます。ただ実際問題、同じレベルなら韓国人選手の方が安いし、契約面でも細かいことを言わないから獲りやすいという一面も正直あると思いますね。